

・・・雨でも休まず、236回、237回・・・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

定例活動1 5月4日(第一日曜日): 小原本陣の森、担い手育成・技術向上
参加費400円

協働活動 5月11日(第二日曜日): 孫山景観周遊路開削、相模原市と協働
参加費無料、10時・小原の郷集合

定例活動2 5月18日(第三日曜日): 若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動
参加費400円

- ・初参加: 9時15分までに JR 相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
- ・服装: 汚れても良い服装、着替え、長袖、滑らない足元
- ・持参品: 成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、18日のみ自分のお椀と箸
- ・注意: 危機管理・救急体制: 安全気配り、森林ボランティア保険、会として可能な限りの体制を敷いていますが事故・怪我は「自己責任」です。

何故?・・・森林保全・再生活動の原動力

- ・雨でも休まず・・・何故、11年間、続けて来られたのだろうか?
- ・森仲間たちは・・・何故、そんなに、ひたむきで真剣なのだろうか?
- ・森仲間たちは、何を思って活動を続けているのだろうか?

- 1 水や空気を供給してくれる森林が無くなれば、子孫は喉を掻きむしる苦しみを受けるだろう。そんな事を見過ごしては行かない。
- 2 同様、温暖化問題など世界を挙げて取り組まねばならぬ問題を、他人事では済ませられない。
- 3 森林活動は楽しい
 - イ 沢山の仲間(想いを同じくする友人)と課題を共有できる。
 - ロ 自然から、沢山のことを教えて貰える。
 - ハ 自然は美しい。美しいものに接している幸せはかけがえない。

個人的な理由だが自我を意識し始める頃から、生まれてきたからには受けた命を意味あるものに役立てたいと思うようになっていた。いろんな事業を起こして成功や失敗をした中で、全ての人・物・事・現象から自分は、生かされていると想う意識が強くなった。そんな想いを持っていたところに、環境問題が強く言われる時代がやってきて、そこに森林の減少とCO2問題が浮上した。大げさだが、この問題解決の手掛かりを作ることが、自分の使命だと思っている。

この活動に参加する熱心な森仲間たちも、それぞれの使命感から行動していると思う。そうでなければ森仲間たちが、こんなに真剣に取り組むはずがない。

小原本陣の森：関連報告

* 報告1 協力協約・中里山境界線調査：3月26日(水)

神奈川県協力協約の森林整備のため、相模原市相模湖総合事務所（経済環境課）のご協力で“中里山”の測量を実施した。参加：森林所有者中里さん・小林さんら小原町の方々6人、経済環境課3人、緑のダム3人、計12人の大部隊。地域の方々の多数の参加は、特に嬉しい。

境界線隣接の小林さんご夫婦の立会いの下、図面と林相を互いに確認しつつ、境界線を測量・マーキングしながら急斜面を登る。場所によっては、図面と境界線があいまいなところがあるが、上を見上げて樹間のあき具合と林相から不思議と判断が付く。また、参加者が横に広がって進むと何かしら以前の測量の痕跡が見つかるので線で結ぶ事が出来る。昨今、森林所有者の相続意思が希薄になって境界線確定が難しくなっているが、このような場数を踏むことによって、境界線調査技術の向上が可能となる。現場最優先の森林NPOが予想しなかったところでブ口化しつつある。午後3時過ぎ、無事、調査が終了した。

* 報告2 生態系調査・勉強会（生物多様性を考える）：3月31日(月)

イ 生態系調査：しのつく冷雨の中、内野指導員(アーバン・ナチュラリスト協会所属)の下、緑のダム3人、学生連合6名、計10名で「森入り口～林道～基地～経路上部」まで調査を実施した。ここは谷間・沢沿いであるため気温が低く新芽の出が遅いそうで、4月27日に再調査を決めて、午後1時に終了した。続いて勉強会の様子は下記。

ロ 勉強会：「生物多様性を考える」

講師は前川健（東京薬科大院生）、駅前カドヤ2階を借りて参加9名。

- ・ 内容 イ、生物多様性の学問的歴史、ロ、生物多様性の概要、ハ、生物多様性の政治的側面、ニ、Forest Nova : もりのば森林生物多様性戦略会議。



勉強会で講師を務める前川君

森林・真理を真剣にまなぶ20代の青年たちと、定年退職後の豊富な経験・知恵を会得した60代の年配者が、全く平等の立場で考えるこの勉強会は、双方にとって新鮮で貴重な経験となった。普通、我々現役引退後の年配者がこのような課題を考えるような機会はないが、「生態学の階層」など、生態系調査を活動の中心課題にして取り組んでいる当会としては有意義である。次回、「森林の生物多様性機能」を勉強する。

『古道か？道中か？どうなる！？小原宿本陣活性化！！』

4月13日、「小原宿活性化推進会議」のメンバー+学生連合「Forest Nova」+緑のダム、計17名が集まり、小原本陣の森の経路作りのための下見が行われました。

今回の経路の下見は小原本陣の森入り口から孫山頂上へ向かい、与瀬沿いに旧道を降りてくるというものでした。

孫山山頂までの道のりはつらい道でした。その経路は作業用の経路であったために、急なこう配になっている所をジクザグと登っていかねばならず、しばらくすると全員ヘトヘト……、休憩しながらやっとのことで頂上に着くことができました。

それに対して、頂上から下る経路は比較的緩やかで、与瀬側に景観伐採すれば相模湖を一望することができ、散策用には最適だということがわかりました。また下っていくとヤブツバキの生えた見晴らしの良い高架橋の上に出ることができ、いろいろとポイントのある経路であるとわかりました。

(途中、動物のフンがありました。ハクビシンかクマのどちらかのものだそうです。……クマだったら、クマ除けの鈴が必要です。)

経路の下見が終わった後は公民館で意見交換会が開かれました。そこで最も議論になったのは旧甲州街道の呼び名でした。「“古道”って何だ？」という声に始まり、「“道中”のほうが分かりやすい」「昔からの呼び名でいいじゃないか」など批難轟々……。「古道」という呼び名を考えた「緑のダム」メンバーはタジタジ、「古道」となった経緯を苦しいながらも参加者に説明し、なんとか説き伏せ、結果、「古道」で統一し、すでに「道中」として特定しているところには道中と付けることで話がまとまり、なんとか一段落つけることができました。



「春森らんまん」

花畑班の多彩なチューリップが出迎えてくれる四月！珍種のチューリップの中でも一際映える、黒紫とピンク柄！そして森の中は小さな白い二輪草でいっぱい！シダ群も噴水状にのびてます！

参加者、望星高校 12 名、学生連合 Forest Nova 9 名、全国森林インストラクター神奈川会会員 21 名、一般 25 名。計 67 名。

本日は望星の森に百本の杉を植える。流行の！？花粉のない杉とか。高校生と森林班の 20 名、川田隊長と宮村先生の指導で午前地ならし。スコップを持ったことのない高校生らも、アレコレ屈託のないおしゃべりを交わしつつ、斜面の上で大きな石をとりはずしたりしながら、無事百本植えおえた！

佐々木ファールと、大学生 6 人（飯垣、宮脇、江里口、金内、浜田、加藤）は一日中小まめに、活



植樹をする望星高校の学生

発に森の中をかけ回っていた！午前、しいたけ 200 本、ナメコ 200 本の菌打ち。木にドリルで穴をあけ、千鳥状に菌を打っていく。打った木には、半月形の木の名札。（所有者ではなく「管理者」の意とのこと。ファール氏の言）菌打した木は、さる所に隠しころがし、時々場所も変えていくという入念ぶり！浜田君のコメント！「菌を打ち込む数や木の太さによって出てくる早さが違うということを知って色々な打ち方の面白さをした。一年後がたのしみ！」午後の倒木片付けでは、雄々しくチェーンソーで大木を切る加藤君の姿！



全国森林インストラクター神奈川会

インストラクター会員の方々は午前嵐山散策、道々、植物の名を照らし合わせたり、鳥の声を聞いたり、頂上までは行けなかった！？午後は森の中を見学。珍しい草花の名をいっぱい聞いた。エンデン草、トウゲシダ、ナルコイリ、又、花イカダの雄木（花がたくさんのもっている）雌木（花が一つ）などもした！（日本酒の名前なら、いっぱいしてるんだけど・・・）（酒酔子）

工房班で最近ガンバトル、貝瀬氏、古川氏。一枚板テーブル作りでチェーンソーで真直ぐ切る

難しさ。いっそ、デコボコテーブルなんてのは！？ダメかな。養蜂班、一人作業だった黒川さんに助っ人！マイ巣箱を持った吉池さん。本日は分蜂。（二ヶ所に巣箱設置）

花畑班は午前整地して、午後ソバの種まき。食用（平沢さんが知人からもらった）と観賞用の二種。食用の方に肩入れして活性剤を全部やっちゃったもんで、丸茂氏が「差別ダー」と観賞用の肩をもつ。女性は「食」に力が入るのです！？

春のランチは、春キャベツのドレッシング、ナスのニンニク醤油漬け、ニラ・モヤシ・玉子のとろり汁。見事に完売！？山菜食べたいなと思っていたら、どなたのさし入れか、見事な、コゴミが回ってきて、舌鼓をうった私！

かえりのカドヤ会議は、「ぼんぼり山」で活動中の大日向さんが旅帰りによってくれ、大いにのみかわした！？

* 全国森林インストラクター神奈川会

追記 石村 黄仁

4年前から平塚市・大磯町にある“湘南平・八俣山・高麗山”約140haを“緑のダム湘南の森”と名付けて平塚市の平沢由美さんが“雨でも休まず”と活動を続けてくれている。北相模の活動が忙しくて手が周りかねており、何とかしなければならぬと思っていた。

植生調査を指導して下さっている内野邦夫さんと当会理事の川田浩さんが上記神奈川会の森林インストラクターであり、神奈川会の皆さんは湘南地区在住者が多いと言う事で応援して頂けないかと言う事になって、この日、当会活動を視察に見えた（緑のダム湘南の森・・・後記に詳細）

・臨時活動報告 相模原市・桜祭り

報告 斉藤 憲弘

4月5日（土）～6日（第一日曜日：小原本陣の森・活動日振り替え）

さくら吹雪の中、相模原市役所前の駐車場2階ほぼ全面を使って、4月5～6日開催されたさくら祭の取材報告。

一番人気は「ミニ機関車」、1643人の乗客数、これを受け入れた駅員さん？お疲れさま！機関手さん達も煙に巻かれて楽しそう。トーマス機関車やD51、電気機関車まで全て、相模湖町のふるさと村の皆さんの手づくりとのこと。故障もなくご立派！



トーマス機関車に乗る子ども達



積み木広場の様子

予定の場所を3倍にしても満員の「積み木広場」は、オイスカや北都留森林組合の皆さんのお陰で、子供たちが終了間際まで楽しみました。子供の真剣な取り組みだけでなく、おじさん達までも熱中する程。「どこで売っているの？」の声があちこちで。

今回のさくら祭の準備に奔走された佐々木さんのご指導で、学生連合の「時計が作れます」には、小さな子供やおばあちゃんまで、幅広い人気で終日大忙し。素材の準備から

この日まで、学生さんらの情熱が、人気を集めていました。

今年も小林住宅の社員総出？の「小鳥の巣づくり」も予定の広さを次々と広げ、子供達の創作意欲を、懇切丁寧に支援していました。かわいい「小鳥の巣」に沢山の小鳥が住みついてくれると、森も楽しくなります。

子供達と自然農法に挑む五色塾の小川さん、面白いクイズを展示していました。小さな野菜の苗を5種類、全部正解の人がいたでしょうか？菜の花の5種類は・・・？白菜の菜の花を見たことありますか？

昔ながらの「紙芝居」には、大人も熱心に見入っていました。子供達には駄菓子のサービス付き、おとなしく見していました。

紙芝居のそばで、大人に好評の「野点」は、川崎NFの「すだれ」に囲まれて中は見えません。

その先に、「間伐材活用コンクールの発表」を、掲示していましたが、時折見に来る人はじっくり時間をかけて鑑賞？・・・。

天気も良く、桜もキレイに咲いた4月5、6日のさくら祭り！Forest Nova も相模原市役所駐車場二階にて、出展させて頂きました。僕等は「森の時計」、「アゲハチョウのさなぎキット」、「森で活動する若者たちの活動発表」をやらせて頂きました。

「森の時計」は、間伐材の木の板に木の実をつけていき、自分オリジナルの時計が作れるというものです。今回は来場者の方々自らに時計を作っていただき、木の匂いやあたたかさ、木の実の触感を感じてもらいました。たくさん子ども達が自分の作った時計を嬉しそうに持って帰りました。



森の時計を作る子ども



羽化したアゲハチョウ

「アゲハチョウのさなぎキット」では、佐々木さんが用意してきてくださった羽化寸前のアゲハチョウのさなぎを、これまたその場で来場者が作るさなぎキットにくっつけてもって帰ってもらいました。これは、普段はなかなか見られないアゲハチョウのさなぎを見て、更には触ってもらい、ついでに羽化の瞬間も見られるチャンスを提供するものでした。左の写真は祭り中に羽化したアゲハチョウ。この日の夕方辺りに、ぱたぱたと飛んでいきました。

「森で活動する若者たちの活動発表」では、僕等 Forest Nova のほかに帝京科学大学「森のココペリ」、法政大学「H.E.L.P」、東京農業大学「ボランティア部」の三団体が、それぞれ普段の活動をパネルにして展示しました。また、三団体の人たちと一緒に時計やさなぎキットをやったことで、普段共に活動したことのなかった人達とも、交友の輪を広げることができました。



活動展示の様子

「森の時計」、「アゲハチョウのさなぎキット」という出し物は普段森に行かない人にも、森の匂いというものを感じてもらうきっかけになったのではないかと思います。また、他団体との交流も果たせ、非常に収穫の多いイベントになったのではないかと感じています。ご協力いただきました皆様、特に佐々木さん、有難うございました。

追記：石村黄仁

“第31回・相模原市：市民祭さくら祭り”は、森林活動をする当会のネットワーク・12団体で参加した。テーマ：「木を使うことは、森を守ること：相模原・津久井の森林を守れ」とした。加山市長・戸塚局長・柳川課長、他市幹部の方々を訪ねてきて来て下さって相模原市の森林に掛ける想いの強さを感じた。ミニSL乗客数から換算して、入場者は恐らく2日間で5000～6000人はあつたろう。とすれば、相模原市民に森を広報する目的は、それなりに果たせた。

『森と人の共助・共生社会の実現に向けて・・・団体を一新していきます！』

～大学生活の残り1年、勝負の年にします！！～

はじめましての方もいると思います。私、Forest Nova のメンバーで麻布大学4年の二藤と申します。今回は緑のダム北相模に関わる皆様には是非、お伝えしたい事があってこの様に記事を書かせてもらいました。それで！今回、お伝えしたい事といいますが・・・

「この度、Forest Nova の代表が前川から私、二藤に交代させて頂いたということです！！」前代表の前川が4月から社会人になりまして、今まで通り活動も行えない、そして代表はやはり前線でフットワークを軽くして活動ができる学生が良いという事で交代する事に致しました。

Forest Nova も設立から、緑のダムの皆様、そして様々な方に支えられ1年半が経とうとしています。設立当初は想いだけで森の事など本当に何も分からず、何をすれば良いのか分からない状態でもあり、緑のダムの方々に何もかも教えて頂くばかりでしたが、現在はある程度ではありますが状況も雰囲気もつかめ、自分たちとしても行いたい事が沢山できてきました。改めて Forest Nova を支えてくださった皆様には本当に感謝申しあげたいと思います。

この様に私たちは多くの方々の優しさをもらい、大きな期待まで頂きながらここまでく事ができました。だからこそ私たちは現状に満足する事なく、これからも常に向上心や何に対しても感謝の気持ちを持って団体理念である『森と人の共助・共生が当たりまえになる社会の実現』を目指して精一杯活動していきます。特に今年1年は、新しく代表に就いたこともあり、また大学生活最後の年という事もあって、自分にとって、団体にとっても勝負の年にしたいと思っております。「思っ」てではないですね。勝負の年にします！！

勝負の年にするためにも現在、Forest Nova は大きく2つの課題に取り組んでおり、1つは「新メンバーの増員」という事で、新しいメンバーに入ってもらうためにオリエンテーションや他大学生への呼び込みを行っています。現在のメンバーは私を含めて、立ち上げメンバーである4年生が4人、2年生が2人と年齢層が高くなっており、若い新しいメンバーの増員・引継ぎが急務になっています。そして2つ目としては団体の活動内容の方針が不明確という事で、現在、団体の活動内容を0から作り直しています。「森と人の共助・共生している社会って・・・そもそもどのような状態なのか」という「そもそも」な部分からメンバーで話をし、活動内容自体を練り直している状態で、本当に現在世界や日本で起こっている森林問題の解決に繋がるような、少しでも社会に対して影響を与えられるような、活動をしていく！という強い思いで5月の初旬までには1年間のある程度の計画は完成させようと考えています。

重複になってしまいますが、私たちは多くの方々に支えられてここまで来る事ができました。石村さんを始め、緑のダムの皆様に出会う事ができ、様々な事を教えて頂き、自分たちの想いのほどで、何でもできる環境まで与えて頂きました。全国の同じ大学生を見ても、本当に、本当に私たちは恵まれていると思います。だからこそ私は思うのです。「私たちがやらなければ誰がやるのか？私たちが大学生として森林問題のために何かアクションするしかない！本当に問題を解決するために、私たちをきっかけに全国の大学生を巻き込んでいき、森と人の共助・共生のためにアクションを起こす大学生を増やしていく！」これは恵まれている私たちだからこそその使命だと思っています。緑のダムの皆様や様々な方々の期待に応えるためにも、自分たちが生きる未来を笑顔で迎えるためにも、私たちは改めてこの1年間を勝負の年にします！！

5年前、平塚の七夕祭りを手伝った折、国道1号線の真正面向こう南方に形の良い三角形の小高い山が見えた。湘南海岸間近に迫る湘南平野に“何であんな山が？”と好奇心に誘われて次の日曜日に出かけた。そこは「高麗山・こまやま：標高168m」と言って7世紀、高麗・唐連合軍と大和・百濟連合軍が白村江（ハクスキノエ・朝鮮半島南部）で戦い、百濟連合軍が敗れ百濟の高麗信光一族が大和に逃れて、ここに移り住んだと言う伝承の地であった。

高麗山頂上～尾根伝いに八俣山～湘南平までノンビリと約2時間弱の散歩の終点・湘南平展望台から360度の展望は雄大で東・太平洋、西・丹沢山塊、南・箱根から富士、北・横浜。相模川が富士・山中湖を源流に相模湾に流れ込む地。交通として中央高速、国道1号線、JR東海道線が南北に走り、この線に沿って横浜・藤沢・茅ヶ崎・平塚・小田原と大都市が並ぶ。JR大磯駅も眼下に指呼の距離。森林活動を広報する地として閃いたのが、ここを「緑のダム湘南の森」に出来ないか。

翌年の1月、横浜で環境団体の発表会場で、平塚市議の武藤圭子さんと画家の岩沢由美さんと知り合って「緑のダム湘南の森」の話が持ち上がり、1年の石村指導の約束で岩沢さんが引き受けてくれた。その後、岩沢さんは“雨でも休まず”と活動を継続してくれているが、スタッフ不足で活動は低迷している。

そんなことで、「全国森林インストラクター 神奈川会」との話が持ち上がって、4月20日定例活動日に神奈川会の21名の方々が“若柳嵐山の森”への視察参加となった。活動終了後の4時から、駅側の桂北公民館で「緑のダムと神奈川会」との情報交換会を実施して、湘南の森の可能性を話し合った。

急がず・無理せず・休まず・楽しく・ポチポチと・・・、だから結論は、未だだが、湘南に集中して在住する神奈川会の人々をして絶好の活動の場であることを確認し合った。



「緑のダム湘南の森」

活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず、ポチポチと・・・
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名 称 : 特定法人非営利活動法人緑のダム北相模：若柳嵐山の森、小原本陣の森

事 務 局 : 154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

発行人 : NPO法人緑のダム北相模・運営委員会 T&F 03-3411-1636

H P : <http://midorinodam.jp>

E-mail : info@midorinodam.jp

協働団体 : 神奈川県（政策部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県北地域総合センター森林部）セブンイレブンみどりの基金

支援団体 : WWF ジャパン、イオン財団、神奈川県建具協同組合、東急コミュニティー